

2013年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



教室だより 5月号

やる気を育てる

5月21日頃は二十四節気の一つ「小満（しょうまん）」です。「万物が成長し、一定の大きさに達してくる頃」を意味します。子どもたちも新しい学年で一か月が経ち、前の学年だった時よりも成長が見て取れるようになってきました。公文式では成長する、すなわち学習効果を高めるためには「やる気を育てる」ことが大切と考えています。「うちの子はやる気がなくて」とおっしゃる保護者の方がいらっしゃいますが、決してそのようなことはありません。私たち周りの大人が、その子のやる気を育てられていないだけなのです。「やる気」は、残念ながら待っているだけでは育ちません。その子の実力に合った「ちょうどの内容」を学習し、大きなマルと100点をもらい、「やればできる」という気持ちでいれば「もっとやりたい」という意欲も育ってきます。ご家庭でも、意欲的に学習できていること、100点をもらっていることを一緒に喜びほめていただくことで、お子さまの「やる気」を育てていただきたいと思います。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

たくさん歌を聞かせて語彙を増やしましょう

本が読めるようになるために大切なことは、語彙が豊かになることと、ことばの使い方を知ることです。そのために最も効果的なのは、歌をたくさん聞かせることです。公文では『生まれたらただちに歌を聞かせましょう』ということと呼びかけてきましたが、歌は子どもの語彙をらくに増やすために非常に役立ちます。しかも親にとってもそれほど難しくなくできることですし、同時に親子の愛情の絆を強めることにつながります。

歌を聞かせると、子どもは口移しに歌詞をまるごと覚えていきます。歌はメロディーとリズムにのって耳に入ってくるので、歌詞が頭に入りやすく、初めは意味がわからなくても、覚えた数が多いほど、何となく意味がわかってきます。覚えることで語彙が次第に増えていくのです。

幼児で方程式の学習をするような進度の高い子どもたちは、語彙が豊富で読書能力が高いということが、私たちの持っている事例からわかってきました。そこで言えるのは、幼児のうちに語彙を増やし、読書能力を育てておけば、それを基礎にして子どもの力はどんどん伸びていくということなのです。

2013年 5月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日
5 こどもの日	6 新緑の日	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

本市場教室日□

横割教室日△

くもん出版刊「四字熟語カード」より

「おじいさんはいなかで、花鳥風月を楽しむ生活を送っている。」
〔国語の宿題で、花鳥風月を題材にした俳句をよむことになった。〕
花、鳥、風、月に代表される、自然の美しい景色。

か ちよう ふう げつ
花鳥風月

今月の「ことば」

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936 (上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891 (福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯 090-2260-0671

Eメール: yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス: yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

【第26回】公文式学習法

1. 学習習慣がつくよう手助けしている

毎日コツコツと学習を積み重ねることで身につく学習習慣。習慣になることでスランプの時も乗り越えることができ、結果として力がついていきます。「幼児期にはやりたくなくて泣き出す時期もあったが、毎日取り組んだ。1問でもできたら大げさに喜び、寝る時は寄り添って『今日は〇〇ちゃんがひとりでできたことがうれしかったよ』とほめて抱きしめて…。勉強＝苦しいことではないということを感じてもらうようにした」(小2)、「プリントを渡した時に『えー』とか『げっ』と言われても動じず、やるのは当然という姿勢を貫いた」(小4) 学年を越えた内容を学習している子どもたちとその親は、「当たり前のことを当たり前続けること」の大切さを理解し、その価値を子どもに伝え、親子で努力を重ねています。

2. 子どもの学習に興味関心をもっている

教材を解く時に「おもしろそう」「次はどんな問題かな」と好奇心をもち、未知のことに対して「知りたい!」と想着取り組めば、さらに実り豊かな学習ができます。知る楽しさや学ぶ喜びを盛り立ててあげるのも、親にできる応援のひとつです。「幼い頃から『公文はおもしろいね』『どんどん先に進めるね』『こんなことも勉強できるんだ』と教材の話がたくさんしてきた」(小3)、「国語教材に出てきた話の続きを読むため、図書館で借りたり、書店で買ったりして、親子で同じ本を読み合っている」(小4)、「親がそばにいても学習しているが、つねに教材には興味をもち、わが子が今どんな学習をしているか夫婦で共有している」(小5) 過干渉でも無関心でも子どもは伸びません。わが子の学習を知ることによって、自然な形で好ましい学習環境を整えています。

3. こどもの自学自習を応援する

公文式の真価は「自学自習」の態度と方法を身につけることにあります。それは教えられて身につくものではありません。日々真剣に問題に向き合い、自ら考え、自ら気づく中で、学び取っていくものなのです。「わからない時はそばにいて、いっしょに調べ、ヒントを与え、自分で答えを見つけ出せるように接している」(小4)、「質問されても答えは教えず、答えの探し方、やり方を教える」(小5・小3)、「学習を続けていけば、いずれひとりでできるようになると先生に聞いていた。それまでつきっきりだったのに、本当にそうなって感動!」(小4) 学年を越えた内容を自学自習することで自ら学び取った力は、将来どの道に進んでも夢をかなえる力となるのです。

*ゆき子の一言コラム

家族で会話をたくさんしていることは重要です。

伸びている子どもたちの家庭には、豊富な会話がありました。「0歳から大人と同じようにたくさん話しかけた。今も学校から帰ってきたら話を聞き、夜、布団に入ってから話も聞く」(小4)「旅行番組を見たら、家族で想像しながら話を膨らませる。地図で場所を確認し、列車や飛行機のルートを調べてみたりする」(小6) ニュースや新聞を見ている時も「こんなことがあるんだね」と親がちょっと話しかければ、社会のできごとに関心が芽生え、夕食時に公文で学習した内容が話題になれば「知らないことがわかる勉強は楽しいね」と、学ぶ楽しさを意識させたり、子どものがんばりを認めたりすることができます。会話から人生の指針や親の思いがくり返し伝わり、いい親子関係作りに役立つことは、順調な学習のベースにもなります。

公文の優先順位を高くする

学校、習い事、友だちづき合い、遊び…。子どもは子どもなりに忙しい毎日を過ごしています。そうした日常生活の中で、公文を「毎日必ずすべきこと」として優先している家庭が多いようです。「子どもの体調をみたり、朝の時間を有効活用しながら、何より公文を毎日できるように心がけた」(小4)、「親子で公文タイムを決め、その時間はテレビをつけないなど学習に集中しやすい環境を作った」(小4)、「『今日は夕方に予定があるから、勉強は先にしておいたほうが楽かな』と自分で計画を立てている姿に、親として安心する」(小6) 家族の協力のもと、学年を越えて自学自習する習慣が定着することで、部活や受験でさらに多忙になる中高生になっても、悠々と充実した学校生活を送れます。

その他連絡

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

5月分の会計引き落としは4月30日です。よろしく願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。